

## アートツアーによる地域環境整備の活性化

### Revitalization of Neighborhood Environment by Art Tour

○鈴木朝道\*・長野宇規\*\*・松本文子\*\*\*・谷口文保\*\*\*\*

Tomoyuki Suzuki, Takanori Nagano, Ayako Matsumoto, Fumiyasu Taniguchi

#### 1. はじめに

現在、農村地域においては、中山間地域を中心とした過疎化、高齢化の進行、混住化の進展に伴い、農地・農業用水路等の地域資源の維持保全が困難に陥っており、農作物の生産や、地域資源のもつ多面的機能の発揮に影響を生じている。こうした状況を受け、地域の活力を再び取り戻すため、地域の特性に応じた様々な方策により、地域活性化を目指す取り組みが全国で展開されている。本論では、大規模な疏水ネットワークの歴史を持つ兵庫県東条川地域で疏水を地域資源として活かしたアートツアーを実施することで、疏水について人々の興味関心を喚起し、認知度の向上を目指す。またその効果を分析し、アートを用いた地域環境整備の活性化の可能性について考察する。

#### 2. 調査対象地の概要

東条川疏水は、加東市、小野市、三木市の農地に農業用水を供給するとともに、一部は加東市と小野市の水道用水としても利用され、全国疏水百選にも選ばれている。通称北播磨と呼ばれるこの地方は瀬戸内海気候に属し、温暖ではあるが降水量が少なく、古くから水源確保のため、無数のため池をつくるなど、水を得るための努力を積み重ねてきた。先人たちの大きな苦勞によりつくられた東条川疏水は、水田開発や水の利活用も可能にした。しかし、当時の様子を知る人は現在数少なくなり、東条川疏水によってもたらされている水の恵みに実感を持って感謝する世代は少なくなっている。こうした状況を踏まえ、「地域の手で次世代のために水の恵みを活かす」ことを目的として、平成 23 年 3 月、加古川流域土地改良事務所が中心となり「東条川ネットワーク博物館構想」が立ち上げられた。この構想に基づき、教員対象ツアー、小学校の疏水学習、聞き書きプロジェクト、疏水の日プロジェクト等数々のプロジェクトが実施され、本年度は、新しい取り組みとしてアートツアーが開始された。本研究では、企画運営に参加するとともに、アートツアー、教員対象ツアー、疏水の日プロジェクトの 3 つのプロジェクトで参加者に質問票を配布し調査を行った。アートツアーの調査対象人数は学生 25 名で回収率は 100%、教員対象ツアーは小野市加東市の教員 34 名、回収率は 88%、疏水の日プロジェクトは地域住民の方々 70 名で回収率は 57%であった。

#### 3. アートツアーの効果

アートツアーの前後で参加者に質問票を配布し、疏水のイメージの変化を調査した。ツアーの前後で 疏水の重要度の認識は 44%と大き

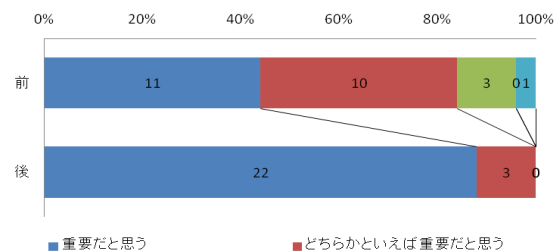


図 1 参加者の疏水の重要度の認識の変化

Fig1. Changes in the participant's recognition of the importance of irrigation channel of the participant

\*神戸大学農学部 \*\*神戸大学農学研究科 \*\*\*自然科学系先端研究融合環および農学研究科 \*\*\*\*神戸芸術工科大学  
キーワード: 地域活性化,アートプロジェクト,東条川疏水,農業用水路,地域環境整備

く増加した。(5%水準の  $\chi^2$  二乗検定でも有意)

#### 4. 疏水の維持管理意欲の要因分析

さらに3つのプロジェクトで、疏水のイメージに関して調査した。質問紙調査の結果から、意識要因間の関係を探り、疏水の維持管理の参加促進につながる要因を明らかにする。質問票で得られた集計結果の相関分析を行った。「疏水の認知」が「疏水への興味」、「疏水の重要度の認識」と高い相関、「疏水への興味」が、「疏水の維持管理活動への意欲」と高い相関を示していることが読み取れる。

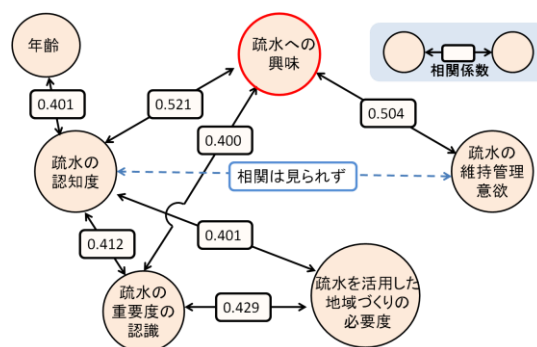


図2 相関分析の結果

Fig2. result of correlation analysis

また、複数の変数による影響を調整するため多変量の2項ロジスティック回帰分析

を行った。得られた結果は表1の通りである。表1より疏水の維持管理意欲は、「疏水への興味」と「年齢」が有意な影響を与えており、疏水への興味が高いと疏水の維持管理意欲は高くなる傾向に

表1 疏水の維持管理意欲についての2項ロジスティック回帰分析の結果

Table1. result of logistic-regression analysis

	Estimate	Std. Error	z value	Pr(> z )	オッズ比
(Intercept)	1.32275	1.46467	0.903	0.3665	
疏水の認知	0.09995	0.3055	0.327	0.7435	
疏水への興味	-0.89946	0.37532	-2.397	0.0166 *5%有意	0.406789
疏水の重要度の認識	-0.36036	0.63619	-0.566	0.5711	
疏水を活用した地域づくりの必要度	-0.87172	0.51763	-1.684	0.0922 .10%有意	0.418232
年齢	0.46835	0.21872	2.141	0.0322 *5%有意	1.597356
性別	-0.33431	0.76335	-0.438	0.6614	
R2値					0.795524

あり、また年齢が高いと同様に疏水の維持管理意欲は高くなる傾向にある。

#### 5. 考察

相関分析の結果より、「疏水の認知」が「疏水への興味」、「維持管理の意欲」へと段階的につながっていると考えられる。すなわち疏水の維持管理意欲醸成のためには、疏水を積極的にPRし、まずは疏水を知ってもらう活動が必要であると考えられる。しかし、「疏水の認知」と「維持管理の意欲」では相関は弱く、疏水を知ってもらうだけでは維持管理活動への意欲にはつながらない。ロジスティック回帰分析の結果からも、「疏水への興味」が要因であることが明らかになった。今回のアートツアーのように、疏水の重要度の認識の向上が期待され、さらにさまざまな場所をめぐり、参加している人だけでなく、見ているひとの興味も引き付ける活動は有効であると考えられる。また年齢についても有意差が出ていることから、元々維持管理意識の高い高齢者だけでなく、若者から高齢者まで幅広い世代を巻き込むことのできるアートツアーは、地域全体として維持管理意欲の向上に貢献できると考えられる。

#### 6. 参考文献

- (1) 東条川疏水ネットワーク博物館研究会(2012) 東条川疏水ネットワーク博物館構想
- (2) 近畿農政局 <http://www.maff.go.jp/kinki/> (最終閲覧日 2月25日)
- (3) 熊倉純子(2014):アートプロジェクト 芸術と共創する社会